

てから亡くなるまでの平均生存期間は2〜3年、その間約2000万円の医療費がかかることがわかりました。自己負担3割としても約600万円がかかるわけです。しかもこれだけの費用をかけても健康な暮らしを取り戻せないかもしれないのです」

手術後の入院、合併症の治療など、患者本人だけでなく家族のサポートも必要だし、その間の就業収入が望めないケースもあるだろう。再発など治療が長期化すれば、その負担は金額以上に大きなものとなる。

「すべてのがん治療においてはタイミングが重要です。転移の状態がひどければ手術ができないように、免疫療法にも最適のタイミングがあります。その機会を逃せば、いくら優れた治療法とはいえ期待される効果をあげられませんが、です。ですからまず発見初期の段階でANK免疫療法を選択すること。そうすることで、がんの根源治療を可能にし、ひいては治療コストを下げるこ

ともなるのです」(石井氏)

がん治療の新たなスタイル

「ANK免疫療法は技術的にはほぼ完成しています。しかし他の免疫療法とは比較にならないほど大量の試薬・機材を使用し、また匠の技を要するNK細胞の培養コストをこれ以上削減することは難しい。そこで我々が提案するのはANK免疫療法と標準治療との併用です。手術などによってある程度大きな固まりのがん細胞を取り除き、取りきれなかった微小ながん細胞を探し出して殺傷する。この療法が最も得意とするところです。さらに、抗体医薬など分子標的薬との併用による相乗効果も期待されます。こうしたより高い効果の望める併用療法によって、単価を下げる代わりに投与回数を減らすことで、がん治療全体のコストダウンをはかることができると考えます」(藤井氏)

ここで、ANK免疫療法を実際に体



石井光 (いしい・ひかる) 新日本橋石井クリニック院長・医学博士。日本医科大学卒業。米国マウントサイナイ病院客員研究員、日本消化管学会評議員。1996年、新日本橋石井クリニック開設。現在に至る。同医院でのANK免疫療法の実施例は現在60(2009年3月5日現在)。確実に実績を積み重ねている。左のた戻写真は増殖活性化されたNK細胞を体内に点滴するための点滴ルーム(新日本橋石井クリニック)。



ANK免疫細胞療法の体験者

手術前よりも元気に

吐き気や胃のむかつきなど、体調の異変を感じた西川さんは2005年の12月に新日本橋石井クリニックを訪れ、翌年1月の内視鏡検査で胃がんが発覚。2月に日本医科大学で手術を受け胃の3分の2を切除。手術後にANK免疫療法を1クール実施。術後3カ月の検査にてがん細胞がほとんど消滅していたと言われる。その後1クールを実施。「手術後の健康管理もあって、以前よりもさらに元気になった」と語る。

西川 曠さん (64歳)



山崎 忠彦さん (65歳)



ホルモン療法との併用

2005年の4月頃、昼間の頻尿に体の変調を感じ新日本橋石井クリニックを受診。前立腺がんの疑い有りと診断され他の病院で再度検査したところ前立腺がんの腫瘍マーカーであるPSAが160(正常は4以下)を記録。転移はなかったがPSAの数値が高いため手術ではなくホルモン療法とANK免疫療法を併用。同年9月に1.5クールを実施しPSAが0.09まで低下。再度0.5クールを実施し現在PSAは正常値内を保つ。

験した患者さん2人の声を紹介しよう。まず1人目は2006年の1月にステージIIの胃がんを宣告され、同年2月に手術を行った西川曠さんだ。

「抗がん剤の副作用が恐かったですし、術後の治療中も仕事を続けたかったことからこの免疫療法を受けることを決意しました。確かに費用はかかりますが、間違いなく効果があることを身をもって経験しています。これまで知人にもすすめてきました」

前立腺がんを宣告された山崎忠彦さんは前立腺の腫瘍マーカーの値が高すぎたために、手術と抗がん剤治療、放射線療法のいずれも不可能と判断され、ホルモン療法とANK免疫療法の併用治療を選択。現在PSAは正常値で推移していると言う。

「医療費は高額ですが、おかげで転移

の心配もなく、穏やかな日常を過ごすことができています。治療に躊躇した僕の背中を押してくれた妻には本当に感謝しています」(山崎さん)

がんを患いながらもそれまでと変わらず生活を保ち健康ばかりではなく心の安定を取り戻した体験者たちに共通するのは、がんの発覚と同時にANK免疫療法の併用を選択している点にある。彼らが特別に幸運だったのではない。潤沢な蓄えをもつ会員ならなおのこと、ただこの免疫療法を知っていれば誰にでも実現可能な治療スタイルなのだ。がんを早期に発見し、手術後は仕事を続けるなど通常通りの生活を送りながらANK免疫療法を受け、免疫を回復させることで再発を抑える。がん治療の次代のスタンダードとなるはずだ。